



岩陰の自然と農を堪能

岩陰ファンクラブ収穫体験



八月二日は岩陰ファンクラブ夏の収穫体験でした。二世帯、四人の方に参加していただきました。越畑の畑で、ナスやキュウリ、トマト、オクラ、トウガラシを収穫しました。

今年は雨も多く、野菜の出来があまり良くなかったようですが、それでも、おいしそうな野菜をたくさん収穫することができて会員の皆さんは満足な様子でした。

収穫体験の後は今が見ごろのオミナエシ畑を散策しました。黄色い小花が咲き誇り、あたり一面にオミナエシの香りが漂っていました。全員マスクを着用していましたが、マスクをつけていてもオミナエシの香りを感じる事ができました。

会員の方からは「なかなか自然に触れる機会がないので、来てよかった」とのこと。岩陰の良さを感じてもらえる良い機会でした。

京都市文化市民局地域自治推進室北部山間かがやき隊
岩陰・水尾地域担当 五明 昇祐
京都市右京区嵯峨嵯原宮ノ上町二一五 岩陰出張所
電話 〇七七- 四四 〇三一四

水尾に伝説あり

シリーズ化しつつある歴史調査ですが、地域の方々から話を聞いたり、資料を読み解いたりしていくと、次々と新しい発見がありました。

水尾については、天皇陵のあたりに「金の鳥」が埋められているという伝説や、仏様に水をささげてお祈りした夜叉の伝説などがありました。

伝説と史実は異なることも多々ありますが、それを深く掘り下げて調べてみると、また新たな発見につながっていくと思いますので、調べてまとめ、また特集として公表していきます。

日の要慎

▽司馬遼太郎氏の『街道をゆく』の二十六巻に水尾が特集されている。かつて司馬氏も水尾を訪れたようで、その時の様子が事細かに描写されていて面白い。

▽古い日本語で山腹の隆起・稜線のことを「をく尾・雄」といい、京都は高雄や槇尾など「を」のつく山地が多く、中でも水尾が言葉としてもっとも美しいと司馬氏は賛美する。

▽「急峻を割って細流が流れている」細流とは水尾川のことだろう。先日猛暑の日、今は遊歩道となっている旧道を歩いてみると、川の流れが涼感と呼ぶとともに、水尾がなぜ水尾か、ということを知らしめた。

▽司馬氏が水尾を去り、「嵐山に降りたとき、短い夢を見ていたような思いがした」と書いています。よほど早急な取材旅行だったのだろう。私には時間がゆつくりと感じられるのだが、気のせいだろうか。

隊員レギュラー出演 「京の田舎暮らしだより」

京都三条ラジオカフェ

FM 79.7MHz

毎月、第2、第4火曜日

12:00 ~12:09

9月は8日と22日です！

<http://radiocafe.jp/2019010001/>

↑ここからも聴けます！

